

第5回総会&活動報告会開催

大阪・活動報告会

《別紙》第5回総会資料



冬の子どもたち。表で雪玉を作って雪合戦をしたり、牛を放牧させたり、水を汲んだりとなかなか忙しい。

世界的な金融不安のなかで迎えた2009年でしたが、この新春を皆様はどのようにお過ごしになりましたでしょうか。

私たち山の学校支援の会は昨年11月に東京での総会・報告会と大阪での報告会を開催しました。大勢の方々の出席をいただき、交流会もにぎやかで楽しい雰囲気のうちを終えることができ、6年目に向けての新たな門出とすることができました。

昨年の師走には、山の学校の校長サフダルから国際電話があり、「子どもたちはみな元気で、次の訪問を心待ちにしている。日本の会員の方々によるしくお伝えください」とのことでした。また、昨夏に始まった新校舎の完成は今夏になるだろうということや、サラーム君の投葉治療が始まったというニュースもありました。耳が不自由でいつも1年生のクラスだったサラーム君が少しでも聞こえるようになるといういなあと思っています。

会の活動はささやかですが、訪問を重ね、交流を続けることで確実に成し遂げられることがあります。同時に、一つ一つの出会いを積み上げることが大切です。心が温かく満たされることも大切ではないでしょうか。その気持ちしが山の学校の子どもたちに伝わり、次第に地域に広がっていくと思うからです。これからもアフガニスタンの子どもたち、人々とつながっていきたい。そんな希望を胸に、皆様と一緒に6年目に向けてのスタートを切ります。

どうぞ、今年もよろしく願っています。

長倉洋海

第5回総会

活動報告会開催

昨年の11月9日(日)に杉並公会堂にて第5回総会・活動報告会を開催いたしました。今回は例年以上に一般の方々のご参加が多く、会員参加と合わせて144名にご来場いただきました。

政治的には相変わらず不安定なアフガニスタンだが、当会としては、マスコミなどの報道に惑わされることなく、長い目で見守る姿勢で支援をしていきたい、という長倉代表の挨拶から始まり、引き続き副代表の比留川から活動報告をいたしました。(国内)昨年度の1年間で会員が100名ほど増えたことや運営委員会が50回を超えたこと、また、全国各地でパネル展が実施されたことなど、主に支援活動5年という節目を迎えたことをふまえての報告となりました。(現地)世界的な経済不安がやはりアフガニスタンの経済と生活を直撃していること、それに伴う先生方の給料アップ要請の件や、5人の先生が自発的に研修を受けたいと毎日研修所まで通っていることなどを報告するとともに、図書室利用が活性化されている嬉しい現状についても併せて報告いたしました。

会計の森からは、ポストカードの収益で50万円余の利益がでたこと、パネルリースも作成料を引いてなおプラスになりつつあることなどを報告、会費や寄付はできなかり現地活動に充てられていることなどもお伝えいたしました。

挨拶をする長倉代表



以下、質疑応答の抜粋です。

Q 教える意欲が上っているなかで、先生と子どもたちの関係はどのように変化しているのでしょうか？

A 先生方は研修を受けたことによつて授業のスタイルが自信をもつたものに変わってきており、実際に子どもたちに聞くと「授業がわかりやすくなった」とのこと、子どもたちも積極的な姿勢でとても楽しく勉強しているように見受けられました。(比留川)

Q 予算の部分で「サラーム君の診察等」という項目がありますが、もう少し詳しく教えてください。

A サラーム君は耳が聞こえないため、今年3度目の1年生をしていく子なのですが、毎日学校へ通ってきており、学ぶ意欲はたつぷりあります。でも、先生たちはどう対応してよいかわからないというため、なんとか前へ進めるよう応援したいということで、カブールの大きな病院での診察を受けられ

るようにするための診察料と、診断によつては補聴器などの医療品が必要になってくるだろう、ということでの費用として計上しています。(森)

Q 国としては音楽・美術についてこれからどうしていく予定なのか教えてください。

A 政府の新指導要領には音楽・美術の項目はないんですね。山の学校としては、図画はすでに積極的に教えていますが、子どもたちの人数に対して全体的に先生の人員は足りておらず、政府に申請しても増員は厳しいといわれています。当会としては、月一回でも出張ペースでもよいので、定期的に音楽・美術を教えに来てくれる人を見つけていきたいと思っております。まずは基本的な勉強を教えられる先生が優先かと思われま

(森・長倉)

最後に長倉代表の「マースドの」いくつか必ずアフガニスタンに平和がくる」という言葉を心に刻みながら、他人行儀でなく、かといって身内過ぎず、といったような、私たちがらではのスタンスで支援を続けていきたい」という言葉で総会は終了いたしました。

※質疑応答の内容を誌面でご紹介するにあたり、一部表現の補足や言い換え、要約をさせていただきました。

今回は、秋の観光シーズン、3連休の初日でしたが、77名の参加がありました(一般44名・会員33名)。

長倉代表によるスライドトークは、故マースド氏との出会いから始まり、山の学校の子どもたちの生活や学校での様子を次々と紹介しながら、当会の活動5年目にしたるまでの経緯と現状が話されました。質疑応答では、長倉さんを卒業論文のテーマに選ばれた学生さんが、若々しくストレートに質問をされていたのが印象的でした。

交流会では、東京で行われたちやばーさんの演奏をスクリーンで再現し、緑色のレーズンやアフガンの木の実と、カルダモン入りの紅茶でティーブレイク。真剣にスライドトークを聴いてくださった皆様方に、ちよつとほっこりしていただきました。和やかな雰囲気の中、展示スペースでは、子どもたちの写真パネルはもちろん、学年別の学校の紹介、色とりどりの衣裳、そしてマースドのコナー、どちらにも熱心に見てくださった姿がありました。

写真集やポストカード、Tシャツ、トートバッグの販売も盛況でした。いっぴいポストカードを買われた会員さんもおられ、売り上げに貢献してくださいました。ポストカードの写真の子どもたち、メッセージとともに、きつと温かい気持ちをお伝えしてくれるでしょう。

今回、東京からは、昨春、現地に赴き山の学校を訪問してきた、比留川副代表と森会計担当が参加し、会場のあちこちで皆さんからの質

問に答えていました。

会員は、地元の大阪・京都・神戸の他、奈良・和歌山・岡山・広島・福岡と遠くから来られた方もおられ、会場準備から片付けまで、和気あいあいと交流を深めることができました。

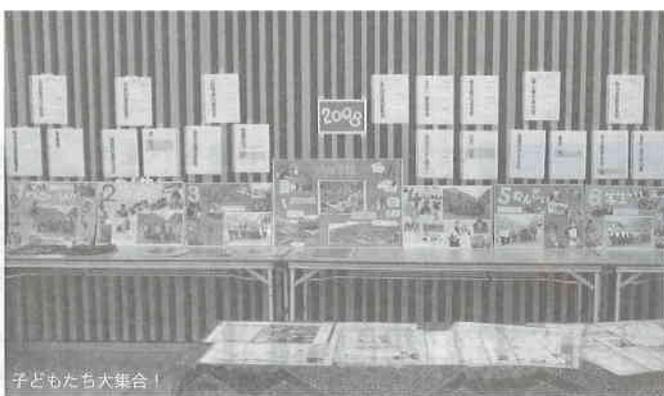
朝日・産経・読売・京都の4紙による告知記事を見て来てくださった方、会員の呼びかけに応じてくださった方……、また新たな出会いを得られたことがとても嬉しいです。

平和に向かっているはずのアフガニスタンですが、自爆テロが続発しています。ささやかであっても、変わらない心で、長く活動を続け、皆さんとともに山の学校の子どもたちを支えていこうと、あらためて考えました。

(大阪運営委員 雨堤・林・辻内)



「みんな大きくなったなあ」。写真を眺める来場者の皆さん



子どもたち大集合!

心をつなぐ…交流会

さあ、報告会の後はホールを移動して交流会です。

会場には、今年もアフガニスタンの木の実を数種と豆菓子(ノコル)やお茶を用意しました。なかでも初登場のアンズは好評で、お皿はすぐ空に。「おいしいね」という声が聞かれました。

販売コーナーでは、書籍・ポストカードに加え、山の学校の子どもたちの写真の入ったTシャツやトートバッグ(製作:ピタミンTeeアートギャラリー)も並びました。

展示コーナーには、長倉代表撮影の「山の学校」の写真の他、

アフガン音楽の演奏に聴き入る参加者の皆さん



子どもたち自身が描いた絵も用意しましたが、多くの方がその絵を手にとって微笑みながら見る姿が印象的でした。

今回の交流会の目玉は、なんといっても「ちやるぱーさ」のミニライブです。

会報前号でもご紹介しましたが、「ちやるぱーさ」はアフガニスタンの音楽を演奏する佐藤さんとやぎさんのユニットで、お二人に我々の活動に共感いただき、今回の演奏実現に至りました。

演奏が始まると、すぐにその周りを囲むように観客が幾重にも集まりました。アフガニスタンの代表的な楽器のひとつ、ルバーブの音色に耳を澄ませます。静かに始まった演奏でしたが、後半は一つだけの弦楽器とは思えないほどの激しく力強い音に、皆引き込まれました。お二人の演奏に、私たちは束の間、別世界にいるような感覚を味わいました。

前号に続いて、お二人へのインタビューの後半部分をご紹介します。

演奏者、「ちやるぱーさ」さんが語る アフガニスタン音楽の魅力(第2回)

Q. ルバーブという楽器はアフガニスタンでは一般にも普及している楽器なのですか?

A. イランなどでは一般の人が楽器を演奏するというのも多いけれど、アフガニスタンではそこまで一般的ではないかもしれないですね。演奏自体は難しくはないのですが、だからといって誰でも弾ける楽器でもないという感じです。

Q. ルバーブを弾くにはどうすればいいですか?

A. まずはアフガン音楽をもっといろんな人に聞いてもらいたいですね。楽器は手に入れようと思えばなんとか手に入るものです。苦労するのはチューニングですが、これは音源を聴いて開放弦の音程をそろえていくしかありません。インターネットで検索すればトップクラスのミュージシャンの演奏の動画も流れているので、これからルバーブを始めようと思っている方には、まずこういうものを見てもらうことから始めてもらいたいですね。

それからルバーブは湿気に弱く、日本のコンディションではだめになってしまうこともあるので注意が必要です。

Q. 日本で買えるおすすめのアフガン音楽のCDを教えてください。

A. "Radio Kaboul"というCDがおすすめです。

Q. 今後の活動について教えてください。

A. (アフガン音楽を専門にやっている人は私たち以外にいないようなので)インド音楽やイラン音楽をやっている人を何人が集めて、アフガン音楽をやってみたいんですよ。そして日本在住のアフガニスタン人の方たちに聴いてほしいですね。以前東京にあるカブール食堂というお店でアフガニスタンの人たちの前で演奏をしたのですが、そのとき感動のあまりうるうるしていた彼等の顔が忘れられないんです。

やぎちさとさんと佐藤圭一さん



総会(東京)・活動報告会アンケートより

総会(東京)

- * 短い時間の中で的確に報告いただけてよかった。
- * 休憩時間のビデオ上映で子どもたちが身近に感じられました。

活動報告会

- * 5年間の活動を駆け足での説明でしたが、スライドを見ながらなのでよくわかりました。山の学校が一人一人の子どもたちの生活の中でとても楽しい貴重な場所であることが伝わってきました。
- * ニュースで出てくる「アフガニスタン」という固有名詞が今までは漠然としていたのですがとても身近に感じました。

支援の会活動内容について

- * 会の主旨である「子どもたちの未来のお手伝いをする」にブレない活動が続いていると思います。
- * 教育の支援、地域主体の活動に共感できた。
- * 混迷するアフガン情勢において長く変わらない関わりを持つという会の姿勢は一言では言えない重いものを背負っ

ていると思います。1年に1回こうして活動を聞かせていただける機会は私にとっては貴重です。

* 息長く「関わる」「つながる」ことの大切さを再認識する機会になっております。

交流会

- * 写真の展示に加えてアフガン音楽の演奏が加わったのがよかった。(東京)
- * 学年別の子どもたちの紹介がよかった。学校の様子が変わりやすかったしかわいい。

その他

* 毎年長倉さんや事務局の方が現地訪問をしてくださるのは貴重なことだと思います。やはり子どもたち、村の人、先生の生の声を日本に届けていただけるのは有難いです。

すべてをご紹介することが出来ず残念ですが、参加者お一人お一人のアフガニスタン、子どもたちを思う気持ちの込められたお言葉を多数いただきました。

これからも皆さんと力をあわせ、山の学校支援を継続していきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

はれるやマーケット in 釧路

2008年10月12日、「山の学校」に新しい黒板を贈ろうとをキャッチフレーズにしたイベント「はれるやマーケット」を、長倉洋海さんの出身地釧路市で開催しました。9月13日から開かれていた長倉さんの個展にあわせ、個展会場隣の広場で行いました。

出店者やライブ出演者に「出店料」「出演料」という名目で寄付金を払ってもらう...という手前勝手な企画だったにもかかわらず50団体を超える方々



地元大学生も、巨大シャボン玉コーナーで募金集めに協力

が協力してくれ、さらに当日は朝からたくさんの方々が訪れてくれました。

「アフガニスタンに黒板が届くといいね」と言いながら募金箱に、お財布の中の小銭を全部入れて下さったお客様もいました。集まった14万5000円の募金を「山の学校」支援の会に寄付させていただきました。

釧路のみなさんの温かい思いが、山の学校に届く日を楽しみにしています。
(釧路・佐竹直子さん)

ポーランドの小さな仲間たち



ラビッドくん
8歳(1年) 体育の時間、元気に走り回るのであるしっかり者



アブドラくん
8歳(1年) 将来の夢は医者。落ち着きのあるしっかり者



マリアちゃん
11歳(4年) きょうだいは女4人男4人



ムシュゴーンちゃん
8歳(2年) 兄のケンカを加勢するやんちゃな子



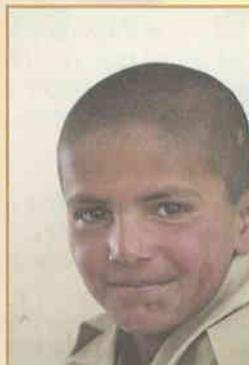
マジヤミンちゃん
7歳(2年) 幼い妹や弟の子守りをよくする



サラームくん
10歳(1年生) いつも静かに、そして、真剣に黒板を見、先生の話を聞いています



タマンナちゃん
12歳(4年) 将来の夢は医者



ワイスディーンくん
12歳(5年) 将来の夢はエンジニア。きょうだいは男4人女2人

事務局から

●第5回総会で配布した資料を同封いたしました。内容をご覧いただき、活動内容に対するご意見・ご感想がありましたら、ぜひお寄せください。

●不要切手と書き損じはがきのご提供、ありがとうございます。

●会員増にご協力をお願いいたします！ 皆さまのご友人やお知り合いの方をお誘いいただく際にご利用いただけるよう、山の学校やHPでご覧いただけます。

●ポストカード第1集〜4集発売中！ 各集とも3枚1セット500円。とくに新しい3、4集をぜひお求めください。詳細は会報11号、HPでご覧いただけます。

子どもたち、本会の活動を紹介します。DVDの作成準備中です。

事務局にもお問い合わせください。

●お忘れなく！ 住所変更の場合は事務局にご連絡をお願いいたします。

●封筒の宛名ラベルの表示は、上段の数字が会員番号、下段が会費の残高です。お確かめください。



〒187-0032 東京都小平市小川町 1-1071-1-5 比留川 気村
FAX&留守番電話：042-45-7305 E-mail:info.yamanogakko@yahoo.co.jp
http://www.h-nagakura.net/yamanogakko
郵便振替口座：00160-1-667404
編集●天野みか 岩動紫 大寺裕 佐々木福紀 水田真紀
題字●近藤聖恵 デザイン●浅井亮志 印刷●(有)アトタック

アフガニスタン 山の学校支援の会は、写真家・長倉洋海が取材活動を通じて出会った、バングラデシュの山村の子どものための教育支援を目的として設立された非営利の団体です。2004年2月に設立、以後2014年3月までの約10年間にわたり活動を続けていきます。